

学校薬剤師対象「体験型くすり教育実践研修会」の実施と
効果的なあり方の検討

日本大学薬学部薬剤師教育センター

あべ めぐみ
安部 恵

学校薬剤師対象「体験型くすり教育実践研修会」の実施と効果的なあり方の検討

日本大学薬学部薬剤師教育センター 安部 恵

(〒 274-8555 千葉県船橋市習志野台 7-7-1 047-465-5908)

要旨

2014年の薬事法改正により一般用医薬品のインターネット販売が解禁され医薬品がより身近になった。生涯の健康を考える上で人生の早い時期に適切な健康行動を形成することは重要であり、公教育において学校薬剤師の果たすべき役割は大きい。しかし、全国学校保健調査（日本薬剤師会）によると、学校薬剤師が担当校で医薬品を題材として講話・講演および支援を行った割合は、2016年度においても約14.3%と低迷している。

そこで本研究では、学校薬剤師によるくすり教育活動を活発化させるためアクティブラーニング型研修会（以下AL型研修会）を実施し、参加者の主体的なくすり教育実施への自信を高めることができるかを調査した。

茨城県内で小学校を担当する学校薬剤師のうちAL型研修への参加希望者62名に対し研修を行った。研修前後で「主体的にくすり教育を実施することへの自信」についてアンケート調査を実施した。また、研修終了時にくすり教育計画を立案し、計画実行後にくすり教育実施報告書の提出を促した。

1、調査研究目的

1-1 背景

我が国では、医療費の高騰などの問題からセルフメディケーションの推進が求められている（1）。2009年の薬事法改正から一般用医薬品販売制度がスタートし、セルフメディケーションを啓発、推進するための法整備がなされ、国民に自己責任、自己決定が求められることとなった。これを受けて、新学習指導要領が提示され、2012年度からは高等学校に加え中学校の保健体育科でも「医薬品についての授業」が開始されることとなった。2008年1月文部科学省の「子供の心身の健康を守り、安全、安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（答申）」には、「子どもが医薬品に関する適切な知識をもつことは重要な課題であり、学校薬剤師がこのような点について更なる貢献をすること」と述べられている。このように答申

されてから11年が経過しているが、全国学校保健調査（日本薬剤師会）によると、学校薬剤師が担当校で医薬品を題材として講話・講演および支援を行った割合は、2016年度において約14.3%と低迷している。

学校薬剤師が担当校で医薬品を題材として講話・講演および支援を行うことの障壁となっている問題について明らかにした報告がされていなかったため、申請者は平成29年度調査・研究助成を受け2017年10月に（公社）茨城県薬剤師会の協力の下、県内の小学校を担当する学校薬剤師に対し、担当校でのくすり教育の実施に関する調査を行った。その結果、実施を阻む障壁として、「学校から依頼されなかった」という外的要因に続き、「人前で話す自信がない」、「パソコンの使い方に自信がない」といった学校薬剤師側の内的要因があることが判明した。

1-2 目的

生涯の健康を考える上で、人生の早い時期に適切な健康行動を形成することは重要であるため、公教育において学校薬剤師の果たすべき役割は大きい2)。

そこで、本研究では、学校薬剤師を対象として従来の講義型の研修会ではなく、参加者が主体的な姿勢で臨むアクティブラーニング型（AL型）の「くすり教育実践研修会」を開催し、研修会への参加が主体的にくすり教育を行うことに対する自信の構築に繋がるかを研修前後で比較検討した。

また、研修後、「くすり教育実施計画」を立案し、2カ月以内のくすり教育の実施と実施報告書の提出を依頼した。研修の受講が実際にくすり教育を実施するという行動に繋がるか観察した。

2、調査研究方法

2-1 研究対象集団

昨年度実施した「学校薬剤師による小学校におけるくすり教育の現状調査研究」の後続研究として、今回も（公社）茨城県薬剤師会の協力の下、茨城県薬剤師会学校薬剤師部会員のうち、研修希望者を対象とする。除外基準は同意の得られない者、実施が困難な者とした。

2-2 方法

茨城県内で小学校を担当する学校薬剤師のうち、アクティブラーニング型（AL型）「くすり教育実践研修会」への参加者62人のうち、研究への参加同意を得られた61人を対象に、研修会の前後に自記入式質問指票による調査を行った。

「くすり教育実践研修会」では主に「くすり実験体験」「USB操作」「スライドディスカッション」「プレゼン体験」「ワールドカフェ」を行った（図1、図3）。

調査項目は、担当校での保健教育活動の実施経験、現時点での保健教育活動の実施計画、

人前で話すことへの自信等とし、フォーマットを独自に作成した(図4、5、6)。

研修終了時に「くすり教育実施計画」の立案を実施し、2カ月以内の実施と実施報告書の提出を依頼した(図7、8)。

2-3 解析方法

研修前後の調査項目について Wilcoxon の符号付順位検定を用いて検定した。解析には統計ソフト IBM®SPSS® Statistics25 を用い、有意水準は5%とした。

2-4 倫理的配慮

本研究は人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従い、日本大学薬学部倫理審査委員会の承認を得て実施した。(承認番号:17-013)

3、調査研究成果

3-1 回収データ

研修参加者62人のうち、研究への参加同意の得られた61人に対し、AL型研修前後における自信について調査をした結果、有効回答数61、回収率は100%であった。回答が白紙であった設問は全て「回答なし」とした。

3-2 結果

3-2-1 属性

回答者の性別は、女性43人(70.5%)、男性17人(27.9%)、未回答1人(1.6%)であった。年齢は、20歳代1人(1.6%)、30歳代5人(8.2%)、40歳代8人(13.1%)、50歳代25人(41.0%)、60歳代22人(36.1%)であった。

3-2-2 くすり教育の実施状況と今後への考え

担当小学校におけるくすり教育の実施状況についての質問には、「実施したことがない」の回答が最も多く27人(44.3%)、続いて「継続して実施している」24人(39.3%)、「実施したことがある」10人(16.4%)であった。このうち、「実施したことがない」と回答した27人に「担当小学校において、あなたが主体となって保健教育活動を実施することについてどのようにお考えですか?」と質問したところ、「既に実施が決まっている」2人(7.4%)、「3ヶ月以内に実施しようと考えている」1人(3.7%)、「半年以内に実施しようと考えている」0人(0.0%)、「1年以内に実施しようと考えている」3人(11.1%)、「数年以内に実施しようと考えている」12人(44.4%)、「実施することは考えていない」5人(18.5%)、その他4人(14.8%)の回答であった。

3-2-3 くすり教育実施に関する自信 (AL 型研修前→研修後)

「人前で話をすることに自信がありますか?」の質問に対する回答は研修の前後で、「とてもある」2人→1人(3.3%→1.6%)、「ある」4人→7人(6.5%→11.5%)、「少しある」12人→20人(19.7%→32.8%)、「あまりない」25人→23人(41.0%→37.7%)、「ない」10人→6人(16.4%→9.8%)、「全くない」7人→3人(11.5%→4.9%)、回答なし1人→1人(1.6%→1.6%)であった(図9)。

「パソコンを使用しての『保健教育活動』の実施に自信がありますか?」の質問への回答は研修の前後で、「とてもある」1人→0人(1.6%→0.0%)、「ある」3人→8人(4.9%→13.1%)、「少しある」17人→25人(27.9%→41.0%)、「あまりない」22人→21人(36.1%→34.4%)、「ない」9人→6人(14.8%→9.8%)、「全くない」8人→1人(13.1%→1.6%)、回答なし1人→0人(1.6%→0.0%)であった(図10)。

「パソコンの使用の有無は問いません。講演・講話による『保健教育活動』の実施に自信がありますか?」の質問への回答は研修の前後で、「とてもある」2人→1人(3.3%→1.6%)、「ある」4人→9人(6.5%→14.8%)、「少しある」17人→19人(27.9%→31.1%)、「あまりない」22人→25人(36.1%→40.1%)、「ない」7人→4人(11.5%→6.6%)、「全くない」9人→2人(14.8%→3.3%)、回答なし0人→1人(0.0%→1.6%)であった(図11)。

「パソコンの使用の有無は問いません。実験やクイズ等を含む『体験型保健教育活動』の実施に自信がありますか?」の質問への回答は研修の前後で、「とてもある」3人→2人(4.9%→3.3%)、「ある」3人→7人(4.9%→11.5%)、「少しある」15人→27人(24.6%→44.3%)、「あまりない」22人→18人(36.1%→29.5%)、「ない」9人→5人(14.8%→8.2%)、「全くない」8人→1人(13.1%→1.6%)、回答なし1人→1人(1.6%→1.6%)であった。

「パソコンを使用しない『保健教育活動』の実施に自信がありますか?」の質問への回答は研修の前後で、「とてもある」3人→1人(4.9%→1.6%)、「ある」2人→10人(3.3%→16.4%)、「少しある」15人→18人(24.6%→29.5%)、「あまりない」24人→22人(39.3%→36.1%)、「ない」10人→5人(16.4%→8.2%)、「全くない」7人→4人(11.5%→6.6%)、回答なし0人→1人(0.0%→1.6%)であった(図12)。

「今、担当小学校から『保健教育活動』に依頼があったとします。薬剤師会からパワーポイントなどのプレゼンテーション資料の提供があったとしたら、現時点での『保健教育活動』の実施可能性はどのくらいありますか?」の質問への回答は研修の前後で、「とてもある」10人→13人(16.4%→21.3%)、「ある」15人→27人(24.6%→44.3%)、「少しある」26人→17人(42.6%→27.9%)、「あまりない」5人→2人(8.2%→3.3%)、「ない」2人→2人(3.3%→3.3%)、「全くない」3人→0人(4.9%→0.0%)であった(図13)。

「今、担当小学校から『保健教育活動』に依頼があったとします。薬剤師会からパワーポイントなどのプレゼンテーション資料の提供、サポート薬剤師の派遣などがあったとしたら、現時点での『保健教育活動』の実施可能性はどのくらいありますか?」の質問への回答は研修の前後で、「とてもある」12人→18人(19.6%→29.5%)、「ある」19人→20人(31.1%→32.8%)、「少しある」23人→20人(37.7%→32.8%)、「あまりない」6人→2人(9.8%→3.3%)、「ない」1人→1人(1.6%

→1.6%)であった(図14)。

3-2-4 くすり教育実践研修会への参加状況(研修後)

「研修参加に際し、研修目的や内容についてある程度知っていた」についての回答は、「そう思う」9人(14.8%)、「どちらかといえばそう思う」23人(37.7%)、「どちらともいえない」15人(24.6%)、「どちらかといえばそう思わない」9人(14.8%)、「そう思わない」5人(8.2%)であった。

「自分自身の能力開発や職務執行上の必要性を感じ、この研修に参加した」についての回答は、「そう思う」34人(55.7%)、「どちらかといえばそう思う」19人(31.1%)、「どちらともいえない」6人(9.8%)、「どちらかといえばそう思わない」1人(1.6%)、「そう思わない」0人(0.0%)、回答なし1人(1.6%)であった。

「上司や同僚の期待を確認した上でこの研修に参加した」についての回答は、「そう思う」8人(13.1%)、「どちらかといえばそう思う」1人(1.6%)、「どちらともいえない」7人(11.5%)、「どちらかといえばそう思わない」1人(1.6%)、「そう思わない」38人(62.3%)、回答なし1人(1.6%)であった。

「今回の研修内容を、職場に戻ってからすぐに活用しなければならない状況である」についての回答は、「そう思う」10人(16.4%)、「どちらかといえばそう思う」9人(14.8%)、

「どちらともいえない」15人(24.6%)、「どちらかといえばそう思わない」8人(13.1%)、「そう思わない」17人(27.9%)、回答なし2人(3.3%)であった。「上司や同僚は私が研修に参加することを肯定的に捉えている」についての回答は、「そう思う」24人(39.3%)、「どちらかといえばそう思う」9人(14.8%)、「どちらともいえない」16人(26.2%)、「どちらかといえばそう思わない」3人(4.9%)、「そう思わない」7人(11.5%)、回答なし2人(3.3%)であった。

「体調万全で研修に参加した」についての回答は、「そう思う」33人(54.1%)、「どちらかといえばそう思う」15人(24.6%)、「どちらともいえない」9人(14.8%)、「どちらかといえばそう思わない」3人(4.9%)、「そう思わない」1人(1.6%)、回答なし0人(0.0%)であった。

「今回のような体験型の研修に以前から参加したいと思っていた」についての回答は、「そう思う」29人(47.5%)、「どちらかといえばそう思う」26人(42.6%)、「どちらともいえない」5人(8.2%)、「どちらかといえばそう思わない」0人(0.0%)、「そう思わない」1人(1.6%)、回答なし0人(0.0%)であった。

「この研修を受講するにあたり、本を読むなど事前準備を行った」についての回答は、「そう思う」2人(3.3%)、「どちらかといえばそう思う」8人(13.1%)、「どちらともいえない」15人(24.6%)、「どちらかといえばそう思わない」7人(11.5%)、「そう思わない」29人(45.5%)、回答なし0人(0.0%)であった。

3-2-5 くすり教育実践研修会の満足度(研修後)

「研修は自分にとって有意義な内容であった」についての回答は、「そう思う」42人(68.9%)、「どちらかといえばそう思う」14人(23.0%)、「どちらともいえない」4人(6.6%)、「どちらかとい

えばそう思わない」0人(0.0%)、「そう思わない」1人(1.6%)、回答なし0人(0.0%)であった。

「期待を上回る内容だった」についての回答は、「そう思う」25人(41.0%)、「どちらかといえばそう思う」27人(44.3%)、「どちらともいえない」7人(11.5%)、「どちらかといえばそう思わない」2人(3.3%)、「そう思わない」0人(0.0%)、回答なし0人(0.0%)

であった。

「研修を受講してよかったと思う」についての回答は、「そう思う」44人(72.1%)、「どちらかといえばそう思う」12人(19.7%)、「どちらともいえない」4人(6.6%)、「どちらかといえばそう思わない」1人(1.6%)、「そう思わない」0人(0.0%)、回答なし0人(0.0%)であった。

「他の仲間にも、この研修の受講を勧めようと思う」についての回答は、「そう思う」34人(55.7%)、「どちらかといえばそう思う」20人(32.8%)、「どちらともいえない」7人(11.5%)、「どちらかといえばそう思わない」0人(0.0%)、「そう思わない」0人(0.0%)、回答なし0人(0.0%)であった。

「研修全体のねらいに対して、本日のカリキュラムは満足できる内容であった」についての回答は、「そう思う」36人(59.0%)、「どちらかといえばそう思う」21人(34.4%)、「どちらともいえない」4人(6.6%)、「どちらかといえばそう思わない」0人(0.0%)、「そう思わない」0人(0.0%)、回答なし0人(0.0%)であった。

3-2-6 くすり教育実施報告書結果

受講者61人中27人(44.3%)より報告書の提出があった。27人中2名人は期間内に2回くすり教育を実施していた。また、27人中13人は初めてくすり教室を実施した者であった。

実施会場は「小学校」が最も多く12件、続いて「薬局」9件、公共施設5件、自宅2件、病院1件であった。

対象者の人数は、「10人以上」が最も多く14件、続いて「5～9人」が10件、「1～4人」が5件であった。

3-2-7 くすり教育実践研修会動画撮影(DVD制作)

今後、AL型の実践研修会を茨城県のみならず広く各地に広めるため、研修会提案の際の参考資料として実践研修会を動画撮影し、DVD資料とした。

4、考察

研修前後の回答を比較した結果、研修後、参加者の「主体的にくすり教育を実施することへの自信」は有意に高まっていた。このことから、AL型研修会の実施は参加者の主体的なくすり教育実施に関する自信を高める効果があったと考えられる。

また、くすり教育実施報告書提出者の約半数が初めてくすり教室をした者であったことから、くすり教育の実施経験のない者にもAL型研修会の効果があり、主体的に実施することへの自

信が高まったことからくすり教育実施のきっかけとなったと考えられる。

一方で、AL型研修終了後に自信が低下した者も見られた。今まで他者がプレゼンをしている様子を見た経験がなく、また、自分と異なったやり方や上級者のプレゼンを見たことで一時的に自信が低下したと考えられる。だが、この経験により自身の今後の取組みに生かす材料を得たともいえる。

今回の調査は、研修会の案内を送付した307人中、自主的に研修会に参加した学校薬剤師62名のうち、研究への参加同意を得られた61人に対して実施したものであることから、対象者がくすり教育実施に対して前向きな考えを持っている者に偏っていた可能性が考えられる。また、今回の調査は研修会直後に行ったものであったため、時間が経過しても自信が継続していくか調査する必要があると考える。

今後の課題として、実践研修会の継続実施とそれに伴うくすり教育の実施状況調査、研修終了後の自信についての追跡調査を実施したい。

5、まとめ

学校薬剤師によるくすり教育活動を活発化させるためAL型研修会を実施した結果、参加者が主体的にくすり教育実施に臨むことへの自信は有意に高まった。

先行研究から学校薬剤師が担当校でくすり教育を実施する際の障壁として「人前で話す自信がない」、「パソコンの使い方に自信がない」といった学校薬剤師側の内的要因が判明したが、AL型研修会の実施によりそれら障壁の解消が期待でき、延いては学校薬剤師によるくすり教育活動の活発化が期待できる。

6、調査研究発表（口頭又は誌上発表）

第12回日本薬局学会学術総会ポスター発表（P-147）

7、引用文献

- 1) 平成28年度主な税制改正要望の概要 平成27年8月 厚生労働省
- 2) 寺町ひとみ, 太田拓希, 香田由美. 小・中・高校生の「医薬品の正しい使い方」に関する知識・意識および指導実施状況. 医療薬学 38(12) 767—779 (2012)

表、図及び写真

	所要時間	内容
8:30		受付開始
9:30	5	主催者挨拶、スタッフ紹介
9:35	15	昨年度郵送アンケート結果報告
9:50	10	研究について (動画撮影のお願いを含む)
10:05	10	事前アンケート
10:15	5	トイレ休憩(実験準備)
10:20	15	くすり実験体験 ①
10:35	15	USB操作 スライドディスカッション ②
10:45	40	プレゼン体験 ③
11:25	5	トイレ休憩(ワールドカフェ準備)
11:30	30	ワールドカフェ ④
12:00	10	実施計画立案
12:10	5	事後アンケート
12:15	15	ご意見・ご要望に対して
12:30		終了

図1 当日のタイムスケジュール



①くすり実験体験



②スライドディスカッション



③プレゼン体験



④ワールドカフェ

図3 当日の様子

図 2 実践研修会DVD

2018年12月16日

くすり教育実践研修会参加者アンケート（事前）

学校薬剤師による「くすり教室」実施に向けたアクティブラーニング研修のあり方に関する研究への参加について

をお願いいたします。

同意する → アンケートへの回答をお願いします。

同意しない → ご提出の必要はありません。

会員番号

あなたご自身についておたずねします 回答方法：あてはまる番号に○をつけてください。

※ここでの保健教育活動とは、学校薬剤師が担当校で実施する児童、生徒を対象とした「薬物乱用防止教育」「医薬品適正使用教育」「アンチ・ドーピング教育」「飲酒喫煙防止教育」などをさします。

性別	1. 男性	2. 女性			
年齢	1. 20代	2. 30代	3. 40代	4. 50代	5. 60歳以上
担当校で継続して保健教育活動を実施していますか。	1. はい		2. いいえ		
2. いいえ の方のみ以下にお答えください。					
今まで一度でも保健教育活動を実施したことがありますか。	1. はい		2. いいえ		
2. いいえ の方のみ以下にお答えください。					

小学校での保健教育活動に対する研修段階での準備状況をおうかがいします。 担当小学校において あなたが主体となって 保健教育活動を実施することについてどのようにお考えですか。	1. 実施することは考えていません。 2. 数年以内に実施しようと考えています。 3. 1年以内に実施しようと考えています。 4. 半年以内に実施しようと考えています。 5. 3ヶ月以内に実施しようと考えています。 6. すでに実施が決まっています。 7. その他（ ）
---	---

教室実施に関する「自信」についておたずねします

研修前の現時点でのご自身の状況にあてはまると思う数字1つに○をつけてください。	全くない	ない	あまりない	少しある	ある	とてもある
1 人前で話することに自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
2 パソコン使用の有無は問いません。講義・講話による「保健教育活動」の実施に自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
3 パソコン使用の有無は問いません。実験やクイズ等を含む「体験型保健教育活動」の実施に自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
4 パソコンを使用しない「保健教育活動」の実施に自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
5 パソコンを使用しない「保健教育活動」の実施に自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
6 今、担当小学校から「保健教育活動」の依頼があったとします。薬剤師会からパワーポイントなどのプレゼンテーション資料の提供があったとしたら、現時点での「保健教育活動」の実施可能性はどのくらいありますか。	1	2	3	4	5	6
7 今、担当小学校から「保健教育活動」の依頼があったとします。薬剤師会からプレゼンテーション資料の提供、サポート薬剤師の派遣などがあったとしたら、現時点での「保健教育活動」の実施可能性はどのくらいありますか。	1	2	3	4	5	6

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

図 4 事前調査票

くすり教育実践研修会参加者アンケート（事後）

会員番号

あなたご自身についておたずねします

回答方法：あてはまる番号に○をつけてください。10. は（ ）内に簡潔にご記入ください。

小学校での保健教育活動に対する現時点での準備状況をおたずねします。担当小学校においてあなたが主体となっ
て保健教育活動を実施することについてどのようにお考えですか。

1. 実施することは考えていません。
2. 数年以内に実施しようと考えています。
3. 1年以内に実施しようと考えています。
4. 半年以内に実施しようと考えています。
5. 3ヶ月以内に実施しようと考えています。
6. なるべく早い時期に実施できるよう取組むことを考えています。
7. まず小規模でのトライアルを行ってから検討しようと考えています。
8. すでに実施が決まっています。
9. すでに実施しており、これからも継続しようと考えています。
10. その他

※ここでの保健教育活動とは、学校薬剤師が担当校で児童、生徒を対象に実施する「薬物乱用防止教育」「医薬品適正使用教育」「アンチ・ドーピング教育」「飲酒喫煙防止教育」などをさします。

保健教育活動実施に関する「自信」についておたずねします

	全くない	ない	あまりない	少しある	ある	とてもある
1 人前で話をすることに自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
2 パソコン使用の有無は問いません。講演・講話による「保健教育活動」の実施に自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
3 パソコン使用の有無は問いません。実験やクイズ等を含む「体験型保健教育活動」の実施に自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
4 パソコンを使用し「保健教育活動」の実施に自信がありますか	1	2	3	4	5	6
5 パソコンを使用しない「保健教育活動」の実施に自信がありますか。	1	2	3	4	5	6
6 今、担当小学校から「保健教育活動」の依頼があったとします。薬剤師会から必要資料、材料の提供があったとしたら、現時点での「保健教育活動」の実施可能性はどのくらいありますか。	1	2	3	4	5	6
7 今、担当小学校から「保健教育活動」の依頼があったとします。薬剤師会から必要資料の提供、実施サポート薬剤師のあっせんがあったとしたら、現時点での「保健教育活動」の実施可能性はどのくらいありますか。	1	2	3	4	5	6
8 今、担当小学校から「保健教育活動」の依頼があったとします。薬剤師会から必要資料の提供、実施サポート薬剤師のあっせんがなかったとしたら、現時点での「保健教育活動」の実施可能性はどのくらいありますか。	1	2	3	4	5	6

次ページへ続きます

図 5 事後調査票（表面）

あなたが研修に参加するに至った状況についておたずねします。

	ご自身の状況にあてはまると思う数字1つに○をつけてください。	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	そう思う	
1	研修参加に際し、研修目的や内容についてある程度知っていた	1	2	3	4	5
2	自分自身の能力開発や職務遂行上の必要性を感じ、この研修に参加した	1	2	3	4	5
3	上司や同僚の期待を確認した上でこの研修に参加した	1	2	3	4	5
4	今回の研修内容を、職場に戻ってからすぐに活用しなければならぬ状況である	1	2	3	4	5
5	上司や同僚は私が研修に参加することを肯定的に促している	1	2	3	4	5
6	体調万全で研修に参加した	1	2	3	4	5
7	今回のような体験型の研修に以前から参加したいと思っていた	1	2	3	4	5
8	この研修を受講するにあたり、本を読むなど事前準備を行った	1	2	3	4	5

本日のカリキュラムについての感想をおたずねします

	ご自身の意見にあてはまると思う数字1つに○をつけてください。	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	そう思う	
1	研修は自分にとって有意義な内容であった	1	2	3	4	5
2	期待を上回る内容だった	1	2	3	4	5
3	研修を受講してよかったと思う	1	2	3	4	5
4	他の仲間にも、この研修の受講を勧めようと思う	1	2	3	4	5
5	研修全体のねらいに対して、本日のカリキュラムは満足できる内容であった	1	2	3	4	5

【ご意見・ご感想等ご自由にお書きください】

ご協力ありがとうございました。

図 6 事後調査票（裏面）

くすり教育実施計画書

識別コード	
実施日（目安）	平成 年 月
	時～ 分程度
実施会場 （所在地）	
予定対象者	
予定参加人数	名程度（成人 名、 児童・生徒 名程度）
実施予定内容	
今後の展望	

平成 31 年 2 月末日までにくすり教育を実施し報告をお願いいたします。

図 7 くすり教育実施計画書

平成 30 年度 くすり教育実施報告書

識別コード	
実施日時	平成 年 月 日 ()
	時 分 ~ 時 分
実施会場 (所在地)	
参加者数	名 (成人 名 児童・生徒 名)
実施内容 (写真添付可)	
参加者の 意見・感想	
実施者の感想	
今後の展望	

平成 31 年 2 月末日までにくすり教育を実施し報告をお願いいたします。

図 8 くすり教育実施報告書

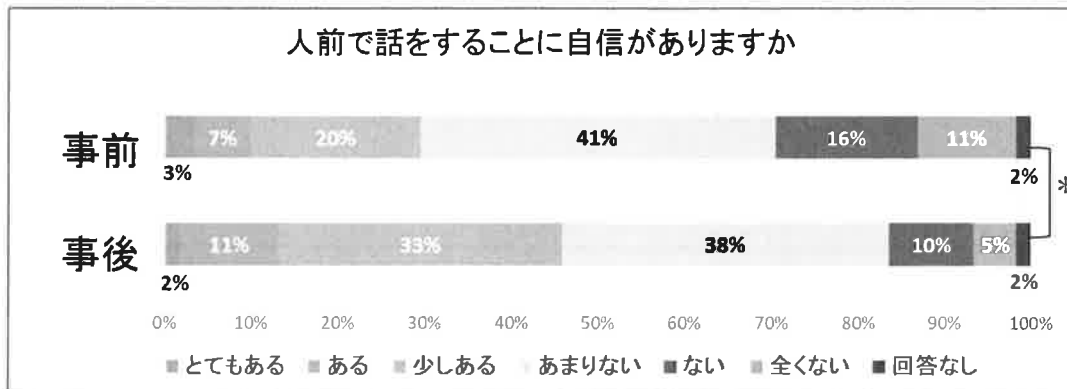


図 9 人前で話をすることに自信がありますか

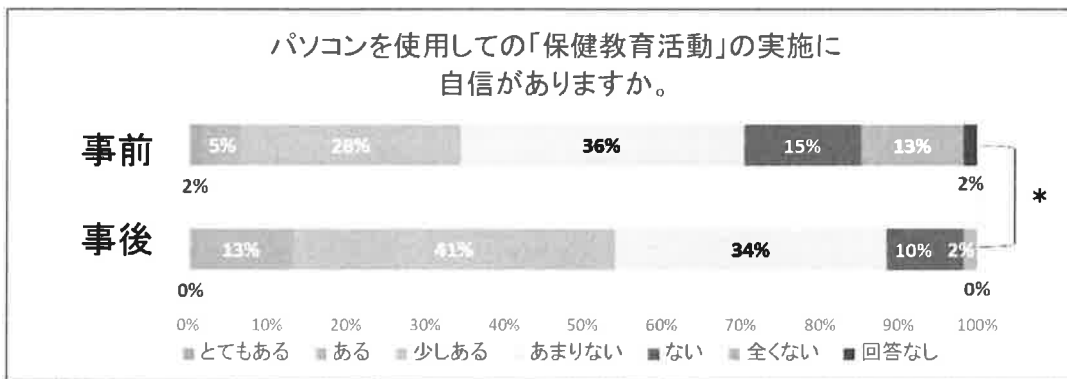


図 10 パソコンを使用する「保健教育活動」の実施に自信がありますか

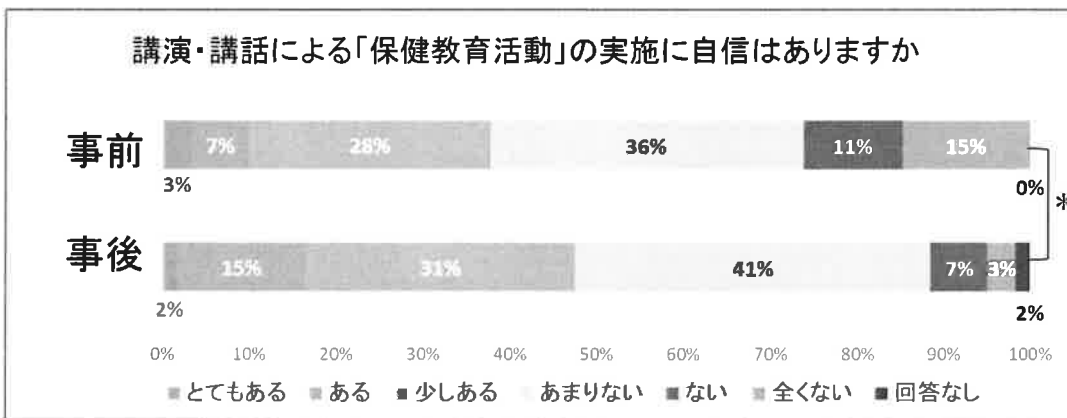


図 11 後援・講話による「保健教育活動」の実施に自信がありますか

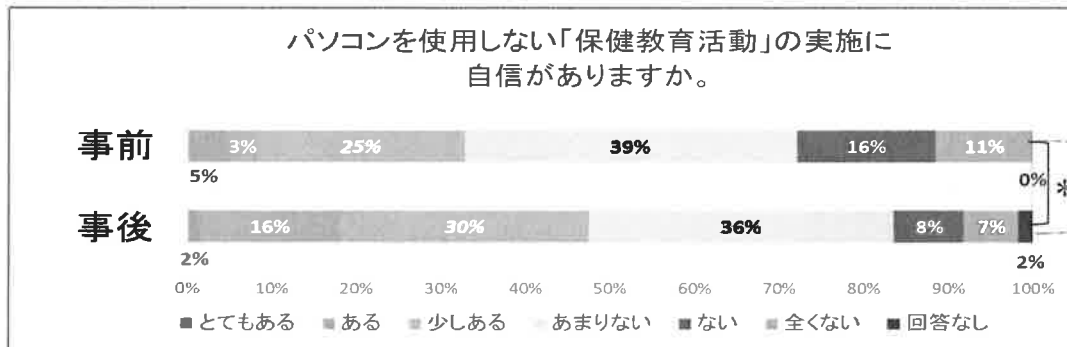


図 12 パソコンを使用しない「保健教育活動」の実施に自信がありますか

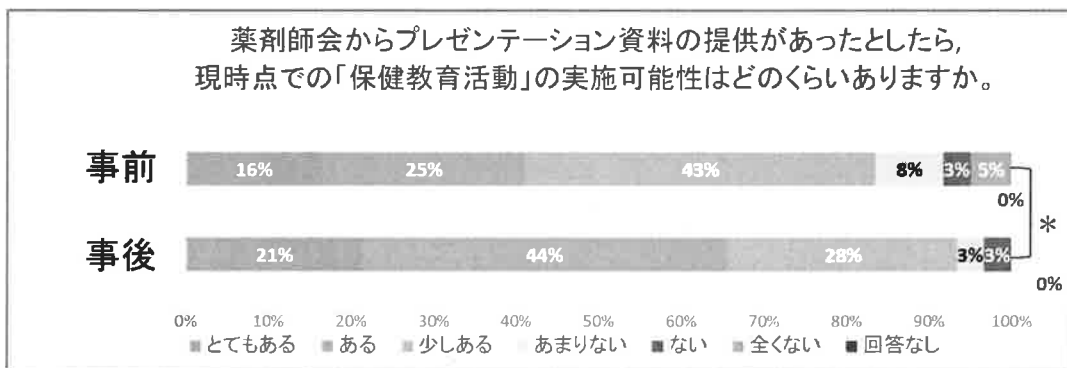


図 13 薬剤師会からプレゼンテーション資料の提供があったとしたら、現時点での「保健教育活動」の実施可能性はどのくらいありますか

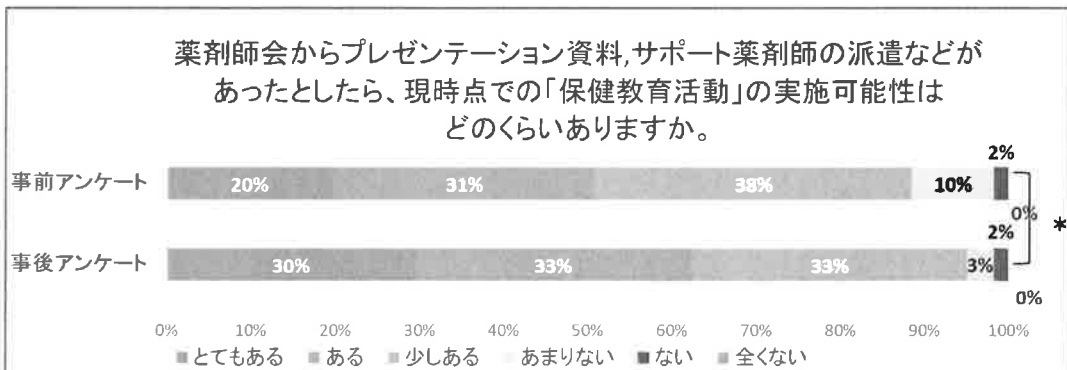


図 14 薬剤師会からプレゼンテーション資料、サポート薬剤師の派遣などがあったとしたら、現時点での「保健教育活動」の実施可能性はどのくらいありますか

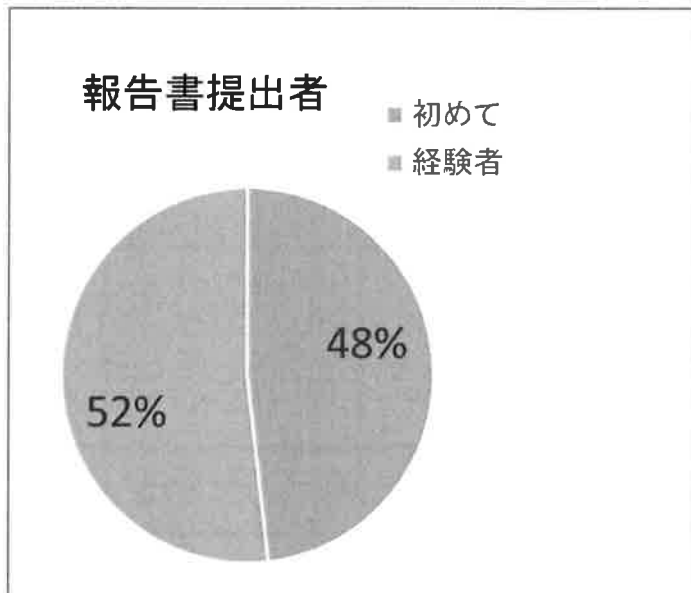


図 15 報告書提出者

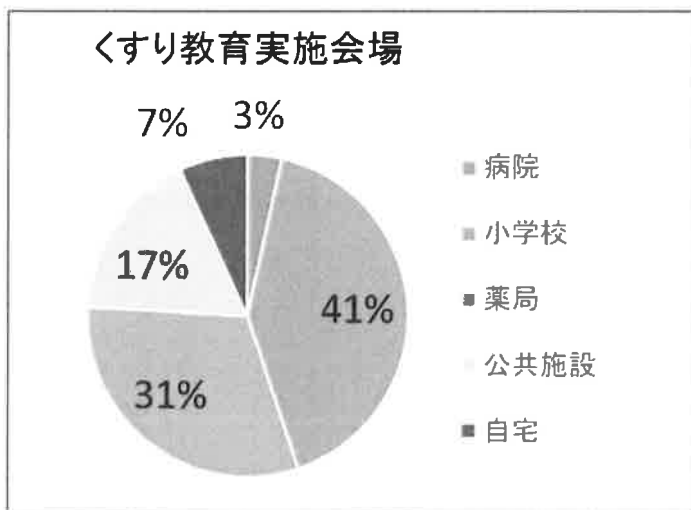


図 16 くすり教育実施会場

Title

Name

Name of Affiliation

Address、Tel

Abstract